（様式３）

（１）上位目標	HIV 陽性者への抗レトロウイルス療法（Antiretroviral Therapy: ART）支援体制の強化を通じて、適切な服薬を継続できる ART 患者が増加するとともに、HIV/エイズに関する予防啓発活動を実施することで、事業地におけるエイズの脅威が軽減される。
（２）事業内容	**（ア）ART センターの建設と整備** 今期は、第１期および第２期に建設したマウントマクル、ナンゴングウェ、ムウェンベシ３ヵ所のクリニックの ART センターの環境整備を進めている。まず、マウントマクルとナンゴングウェに供与を予定している血液検査装置（CD4 測定器）の輸入手続きを開始した。同測定器は、患者の免疫状態や抗レトロウイルス（ARV）薬の処方を判断する上で重要な指標となる血液中の CD4 陽性 T リンパ球数を測定するために用いられる。次に、病状の深刻な患者の搬送に備え、自転車用救急カートをナンゴンウェとムウェンベシに１台ずつ供与した。さらに、患者の治療継続啓発のため、ART センターの待合室に TV モニターと DVD プレーヤーを３クリニックに設置した。あわせて感染予防教育のため、女性用コンドーム装着実演用の模型１台をマウントマクル・クリニックに供与した。これら資機材はいずれも、各クリニックで適切に管理、活用されていることを確認している。 **（イ）ART 患者情報管理システムの改善と確立** マウントマクルおよびナンゴングウェでは、第２期に患者情報管理ソフトウェア（スマートケア）への患者登録が完了したことで、スマートケアを通じて ART 患者の情報を管理できるようになっている。患者の家庭訪問活動においても、服薬支援ボランティアが長期にわたり来院していない患者を迅速かつ容易に把握できるようになった。また、マウントマクルでは、服薬支援ボランティア全員を対象に、スマートケア操作に関する研修を実施した。これにより、ボランティア自らがカウンセリング結果を入力することができ、長期に来院していない患者を照会できるようになった。 ムウェンベシにおいては、本事業期間内にスマートケアへの患者情報登録が完了できるよう進めている。同時に、服薬支援ボランティアと当会職員で ART 患者の全カルテから長期来院していない患者 472 名分の一覧表（患者名、ID 番号、住所、連絡先等）を作成し、これをもとに家庭訪問を実施している。 **（ウ）服薬支援ボランティアの育成と自立支援** クリニックへの自転車用救急カートの供与にあわせ、服薬支援ボランティアが、病状が深刻で通院が困難な患者の病状の確認や介助が行えるよう、４月 15 日から 17 日までの３日間の日程で、３クリニックの服薬支援ボランティア計 46 名に対し介助研修を実施した。この研修では、代表的な日和見感染症のひとつである結核に関する基礎知識、被介助者から介助者への結核感染の予防法、また寝たきりの患者の利用するシーツの交換方法などを、実習を交え教授した。 さらに、当事業終了後も服薬支援ボランティアが ART センターや地域で効果的に啓発活動を行えるよう、ファシリテーション能力強化研修を実施した。当研修は当初予定していなかったが、ボランティア側からの強い要望があり、また事業効果の持続性を考慮し実施することとした。

	当ワークショップではボランティア間のファシリテーション能力の差異を考慮し、2グループに分けて実施した。ある程度のファシリテーション技能が確認できているボランティア16名に対しては、6月1日から3日までの3日間の日程で実践形式を中心に研修を実施した。残りのボランティア33名に対しては、6月8日から6月12日までの5日間の日程で、ファシリテーターの役割やファシリテーションと講義の違いについての座学と実践練習を交えて技術の習得を図った。 **（エ）ART患者及びその親近者に対する啓発活動実施** 3ヵ所のクリニックに通院するART患者及びその親近者に対し、HIV/エイズの基礎知識および服薬支援に関するワークショップを、6月末までにマウントマクルで3回、ナンゴングウェで4回、ムウェンベシで4回の計11回実施し、計341名が参加した。今期では、服薬遵守を阻害する代表的な要因となるアルコール過剰摂取や薬物乱用の問題をワークショップのトピックに加え、服薬だけでなく、健康維持の重要性についても再認識を促すプログラム構成とした。 **（オ）学校エイズ対策クラブに対する予防啓発活動実施** ムウェンベシ地域において、ムウェンベシ中高等学校、ウェストウッド小学校、ムパンバ小学校、マーノ小学校、ムクユ小学校の5校のエイズ対策クラブは、第2期の次年度計画策定ワークショップで作成した年間活動計画に基づき、校内外においてクラブメンバー以外の若者や保護者を含めた地域住民に対し、HIV/エイズや早期妊娠、HIV検査などに関する啓発活動を行っている。 第2期の後半から新たに支援対象校として加えたムクユ小学校のクラブメンバーおよび顧問教師22名に対し、当校のエイズ対策クラブメンバーが校内外で効果的に啓発活動を行えるよう、6月5日から7日にまでの3日間にかけてファシリテーション能力強化研修を行った。当研修は、他の4校に対しては第2期に実施済みであるため、中でも年長者にあたるムウェンベシ中高等学校の生徒4名が実践の場としてファシリテーターを務めた。また、HIV／エイズ予防啓発の手法として地域で最もよく使われる啓発劇に焦点をあて、啓発劇のシナリオの組み立て方や、来場者に対して効果的にメッセージを伝えるための技術などを伝授するワークショップを、全5校のクラブメンバーと教師86名に対し3日間の日程で行った。当ワークショップでは各学校のクラブ間で啓発劇を披露し合った上で相互評価を行い、改善学習を行った。また、当ワークショップは学校間で刺激を与え合い、クラブ活動の活性化につながる契機にもなった。さらに、6月30日の国家VCTデー（VCT［自発的HIV検査とカウンセリング］を全国的に呼びかける記念日）における啓発活動準備として、ムウェンベシ中高等学校とウェストウッド小学校のクラブメンバーおよび教師32名に対し、VCTに関する復習会を6月13日に実施した。 啓発活動については、6月30日の国家VCTデーに先立ち、6月21日にムウェンベシ中高等学校とウェストウッド小学校2校のクラブメンバーが戸別訪問啓発活動、6月28日には5校すべてのクラブメンバーが2ヵ所に分かれ、ムウェンベシ・クリニックと共同でVCT啓発イベントを実施した。イベントではワークショップで学んだ内容を活かしながら、

	HIV 検査や ART などをテーマにした啓発劇を地域住民に対し披露した。
（３）達成された効果	（ア）ナンゴングウェおよびムウェンベシ・クリニックに自転車用救急カート各１台を供与したことで、病状が深刻な患者を迅速に搬送し、治療を行える体制ができた。また、3 クリニックに TV モニター、DVD プレーヤーを供与したことで、来院患者が診療までの待ち時間に HIV／エイズや ART に関する知識の習得ができる環境が整った。マウントマクルでは、女性用コンドーム装着実演用の模型を設置したことで、 ART 患者にとって特に重要であるコンドームの装着方法をクリニックで正しく学べるようになった。 （イ）マウントマクル、ナンゴングウェ両クリニックにおいては、スマートケアを通じて ART 患者の情報管理が行えるようになった。マウントマクルでは、服薬支援ボランティアもスマートケアを操作して長期来院していない患者のリストを出力できるようになり、家庭訪問のための情報収集が容易になった。ムウェンベシでは第 2 期と同様に、180 日以上の長期にわたり来院が途絶えている患者の一覧表が作成され、これをもとに通院治療再開を促すための家庭訪問が実施されている。これと並行して、スマートケアによる患者情報の電子化も進めている。 （ウ）6 月末現在では、マウントマクルでは 10 名、ナンゴングウェでは 13 名、ムウェンベシでは 25 名の服薬支援ボランティアが、各クリニックの患者家庭の訪問をはじめ、カルテ整理やカウンセリングなどの服薬継続支援活動に従事している。家庭訪問の実績では、2015 年 1 月から 5 月末までの累積で、マウントマクルでは 96 件（月間平均 19 件）、ナンゴングウェでは 201 件（月間平均 40 件）、ムウェンベシでは 260 件（月間平均 52 件）、計 557 件の長期来院停止患者を訪問したことが確認された。昨年の同期間の累積 402 件に比べ 38%の伸びを示しており、全体として活動の定着が認められている。 なお、第 2 期事業の完了報告書で述べた通り、今期より成果①の指標②を見直し、家庭訪問記録表により、マウントマクルでは月間平均 20 件以上（ボランティア 1 人あたり 2 件以上）、ナンゴングウェでは月間平均 39 件以上（ボランティア 1 人あたり 3 件以上）、ムウェンベシでは月間平均 50 件以上（ボランティア 1 人あたり 2 件以上）の長期来院が途絶えている患者の家庭訪問が実施されることを、達成指標として設定した。指標設定にあたっては、ボランティアが生活に支障なく、無理のない範囲で続けられること、また、各クリニックの登録患者数や管轄地区の人口密度などの地理的事情も考慮して行った。 本事業終了後にボランティア活動を持続させるための資金調達活動として、マウントマクルではボランティア自身が傘の販売に加えて携帯電話用プリペイドカードの販売を開始した。ナンゴングウェではケータリング事業を第 2 期より継続している。ムウェンベシにおいても今期よりケータリング事業を開始した。さらに、ナンゴングウェの服薬支援ボランティアに対し、当会職員が助成金獲得のための申請書作成指導を行った。その結果、米国大統領エイズ救済緊急計画（PEPFAR）の小規模助

	成金の申請書の一部を作成できるようになり、文書作成や予算策定など、一定の書類作成能力が身に付いたことが確認できた。 （エ）ART 患者およびその親近者を対象にしたHIV/エイズ基礎知識と服薬支援に関するワークショップを、6 月末までにマウントマクルで 3 回、ナンゴングウェで 4 回、ムウェンベシで 4 回の計 11 回開催し、 ART 患者 213 名、親近者 128 名の計 341 名が参加した。ワークショップ実施後の確認テストでは、参加者の 8 割以上が正答率 60 パーセント以上を達成し、知識の定着が確認できた。 （オ）6 月末までに、5 校の学校エイズ対策クラブは、計 1,022 名の学校生徒および地域住民に対し、学校内外で HIV/エイズや早期妊娠、HIV 検査をテーマにした啓発活動を実施した。
（４）今後の見通し	（ア）マウントマクル、ナンゴングウェの 2 クリニックに供与する CD4 測定器は 9 月中の供与を目標として輸入手続きを進めている。また、マウントマクル・クリニックへの女性用コンドーム装着実演用模型の供与は完了したが、他 2 台は現在当会事務所への輸送を待っており、到着次第ナンゴングウェおよびムウェンベシ・クリニックに供与する予定である。 （イ）スマートケアへの患者情報登録が完了しているマウントマクルとナンゴングウェでは、滞りなく患者情報が更新され、クリニックスタッフおよび服薬支援ボランティアが情報に適宜アクセスできる状況になっていることを確認する。ムウェンベシでは引き続きスマートケアによる患者情報の電子化を進める。ムウェンベシでの電子化が完了すれば、3 クリニックすべておいて、スマートケアによる ART 患者の通院および服薬モニタリングの情報管理システムが構築されることになる。 （ウ）服薬支援ボランティアの活動の要である家庭訪問活動については、各ボランティアの家庭訪問実績を掲示公表するなどしてボランティア間で相互に刺激を与えあう工夫を行ったり、クリニックとボランティア間の協力関係をさらに強化し、服薬支援ボランティアが活動しやすい環境が維持されるよう後方支援を行う。本事業終了後も各クリニックの服薬支援ボランティアが活動を継続できるよう、資金調達ワークショップを計画している。同ワークショップでは小規模ビジネス運営を学んだり、助成金申請書を作成するなど、より実践的な取り組みを通じて自ら活動資金を生み出すための能力を強化する。 （エ）今後 7 月から事業終了までの期間で、ART 患者およびその親近者に対する服薬遵守ワークショップを計 18 回実施し、計 450 名が参加する予定である。なお、7 月には平日勤務のため参加できない ART 患者を対象に、土日祝日を利用して当該ワークショップを開催し、参加者の拡大を図る。さらに、普段クリニックに通院している患者だけでなく、長期来院できていない患者に対しても服薬支援ボランティアがワークショップへの参加を呼びかけたり、通院を長期間中断している潜在的な ART 患者に対して治療の再開を促すことを目的に、人口密集地区において啓発プログラム映像の上映会を実施する予定である。 （オ）各校のエイズ対策クラブが活動を継続できるよう、適宜助言を与えながら、後方支援を続ける。12 月 1 日の世界エイズデーには、各校の

（様式３）

	クラブと当会が共同で地域住民に対する啓発イベントを開催するよう調整を進める。